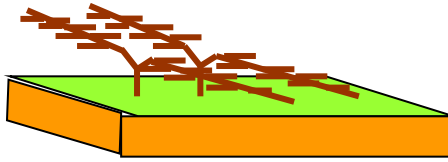


急傾斜地に適した新しいナシの早期成園化法

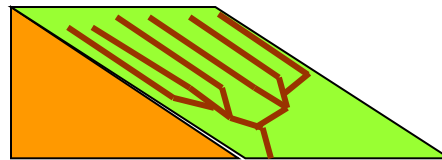
【背景・目的・成果】当センターで開発した密植・2本主枝整枝により早期成園化が可能ですが、平坦～緩傾斜地での栽培を前提としていました。そこでメリットを生かすために、本県のナシ生産地で多い急傾斜地に適した新しい密植・2本主枝整枝を開発しました。

その結果、新しい整枝法は慣行栽培に比べ早期に高収量で大果生産が可能であることが明らかとなりました。



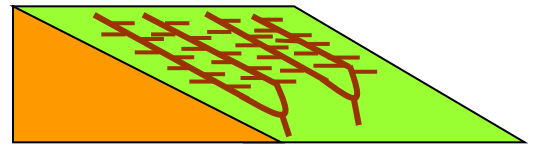
当センターで開発した密植・2本主枝整枝
メリット：早期成園化・袋掛け作業等の省力化が図れる

従来



県内のナシ産地で多く見られる急傾斜地
主枝を分岐させていくため枝の強さに差が出やすい

急傾斜地に適した新しい早期成園化法



2本主枝で大苗育成後定植

2本主枝を斜面上方に沿って育成
(間隔は列間4m×樹間3.5m)

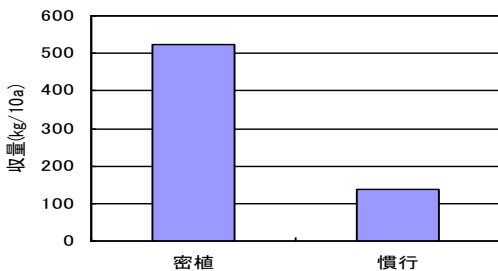


図1 植え付け3年目の収量
10a当たりの収量が増加します。

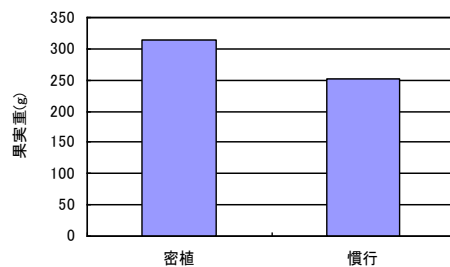


図2 果実重の比較(植え付け3年目)
密植・2本主枝整枝により果実重が増加します。

【技術の活用】新しい早期成園化法は「二十世紀」や「おさゴールド」以外の品種でも応用可能です。